

平成27年1月

大月優貴 学位論文審査要旨

主査 山本 一博
副主査 久留 一郎
同 西村 元延

主論文

Adipose stem cell sheets improved cardiac function in the rat myocardial infarction, but did not alter cardiac contractile responses to β -adrenergic stimulation
(脂肪幹細胞シートはラット心筋梗塞における心機能を改善するが、 β 受容体刺激への収縮反応性を変化させない)

(著者：大月優貴、中村嘉伸、原田真吾、山本康孝、荻野和秀、森川久美、二宮治明、
宮川繁、澤芳樹、久留一郎、西村元延)

平成27年 Biomedical Research 掲載予定

参考論文

1. 胸部解離性大動脈瘤と両側総腸骨動脈閉塞の合併に対しステントグラフトを用いたハイブリッド治療を施行した1治験例

(著者：岸本祐一郎、佐伯宗弘、中村嘉伸、藤原義和、白谷卓、大野原岳史、大月優貴、
岸本諭、西村元延)

平成24年 日本心臓血管外科学会雑誌 41巻 323頁～326頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、Lewisラット心筋梗塞モデルを用いて、ASC・Myoblastシート移植の心筋リモデリング抑制による心不全改善効果、 β 刺激薬への反応性を検討したものである。その結果、ASCシートは、Myoblastシートと同等の心筋リモデリング抑制効果、心機能改善効果を認めること、 β 受容体刺激に対する反応性はシート移植により改善しないことが判明した。両シート間に有意差はないが、ASCは低侵襲で多くの細胞が採取可能という利点があり、心筋梗塞後心不全の再生治療において、現在臨床応用されているMyoblastシートに代わる治療法になる可能性を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。